

■ X線 VS 電磁波レーダ比較表 2

探査対象と目的によって最も適した方法を選択してください

	X線	電磁波レーダ
確実性	電線管・鉄筋等の位置を正確に把握することができ、通線されている場合は、ケーブルまではっきり確認できます。人的ミスを除いては、99.9パーセント以上の確率で判定可能です。	鉄筋はほぼ正確に把握できますが、電線管については、条件によって探査可能な場合もありますが、不可能な場合の方が多く、特にCD管等の非金属管はほとんど探査不可能です。鉄筋と電線管の区別も難しく、通常は鉄筋ピッチからはずれた位置にある物を電線管等と判断するため、確実性に欠けます。
安全性	X線による被曝防止のため、照射時のみ5m以内立ち入り禁止となります。	特に人体への影響はありません。
周辺機器への影響	パソコン等の機器には影響ありません。カメラ等の生フィルムは感光してしまいます。	パソコン等の機器には影響ありません。
総合比較	電線管探査の場合は、現状では確実なものはX線以外にありません。鉄筋探査においては、X線・レーダとも一長一短ですが、鉄筋径の測定が必要な場合や複雑な配筋の場合は、X線の方が効果的であります。	鉄筋探査においては、径は解りませんが、位置及びかぶり厚さはほぼ正確に把握できます。 ※ただし、間隔が30mm以下の場合や複雑な配筋の場合には、はっきり解らない場合もあります。 電線管については、解る場合もありますが、解らない場合もありますという程度なので、確実ではないため、一応の目安程度とお考えください。